



【湯の浜海岸】



【草薙の最上川リバーポート】



【旅館前にて】



【お盆片手に得意の獅子舞い】



【職員と一緒に花笠踊り】

はとつていない！飲めや歌えの大騒ぎ？とまでは行かなかった様でしたが、歌は出るは、踊るはで常日頃のフラストレーションを消化させていた様でした。

そんな訳で、園の就寝時間より若干オーバー。翌朝は朝風呂を楽しむお年寄りや、園で待っているお友達への土産を買う姿が見られ「これが人間本来の姿なんだ」と改めて感じさせられました。

その後、加茂水族館や月山ダムを見学。そして一路、帰途へと言いたい所ですが、何しろ熟年パワーの珍道中、紙面には載せられない、いろんな出来事に会いましたが、一介の付き添い職員にしてみれば、それは受容の心で許して頂ける範囲だと思えますので、とてもとても紹介出来ませんし、言えません！と言いつつも、詳しい出来事を知りたい方は、私までご連絡を下されば……？

そんな訳で園に到着です。「お帰りなさい！」「お疲れ様でした」とお年寄りや職員の元気な声に迎えられる、少し疲れた様子でしたが「無事が何よりのお土産！」と正面玄関に入って行く皆さんでした。

私たち職員は、皆さんにもっともつと、よりよいサービスメニューを提供させて頂きたいと思っています。また来年をお楽しみに！

**樋口あさ**

旅行で残念だったのは、バス酔いで気持ち悪くし、舟に乗ることが出来なかったことです。あれほど楽しみにしていたのに、皆さんに迷惑をかけました。水族館では、赤や青黄色と色とりどりの魚もたくさん見ました。海の見える所に泊まって、私は生まれた所を思い出しました。白鷹町に嫁いで五十七年、白光園にお世話になって三年目になります。これからも体を大切にがんばります。

**高橋庄七**

おもしろかったあ。海は今まで見たこともなく、初めて見た。おつきくつたまげた。朝日村で見た獅子の飾り物もよかった。獅子おどりを若い時からしたがる思い出した。宴会の時は久しぶりに踊って、みんなから喜ばちえよかった。温泉にも入ったし料理もうまかったし来年もいざいいなあ！



【加茂水族館】



【立川町風車村】



【舟内にて外国人と英会話楽しむ】



【花笠地蔵】

八月二十七日、午前八時三十分、天候はくもり、ん！若干北々西の風が吹いているかな？。そんな天候の中「俺の分まで遊んでこいよー」「俺も土産忘れたんよー」と園で留守を守っているお年寄りからの声。「あーわがった、旅館さ着いたら芸者呼んで、お前の分まで遊んで来てけつからな」「お土産何いいなや？」とバスに乗り込むお年寄りの声、そして職員からの「いつてらっしゃい」の声。そんな声に見送られて総勢十七名、「発車オーライ」。湯の浜温泉バス紀行の始まりです。

出発当初は、皆さんに会話が全然みられませんでした。朝日町を通過する頃には「道えぐなつたなアー」とか「俺昔ここ来たことある」とかの会話も聞かれ初めて来た様でした。バスは天童市を貫き東根市を通過、外では雨音が聞こえ始めてきた様です。バスは一路、戸沢村古口へ。

正午前、ようやく古口の舟番所に到着。門をくぐり少し長めの階段を一段、そしてまた一段降りて行き舟着き場へ。舟は透明なビニールシートで覆われていましたがあいにくの雨で充分に舟の外の景色

**珍道中、膝栗毛、湯の浜温泉紀行**

を堪能出来なかったのでは？と心配でしたが、そこはお年寄り、舟頭さんの唄う「最上川舟唄」と一緒に口ずさんだり聞き入ったりする様子うかがえましました。

そして、そこでの一番の極めつけは、同じ舟に乗っていた外国人との会話を試みる？お年寄りが現れハラハラ、ドキドキ、ただただだだだ。片言の日本語で話す会話を耳をそばだてていきますと、ヒッチハイクの途中だとか、それはばかりか一緒に記念撮影まで、ん！何と言うずうずうしさ？（本心ではありませんから悪しからず）しかし、外国の人と会話をしてみようとする好奇心が沸くと言うことは、まだまだ若い証し！。「気をつけてヒッチハイクを続けて下さい」の言葉最後に一路、湯の浜へ。

途中、風車村に寄って見学し、さあ湯の浜到着です。きれいな夕陽を見ようと皆さん期待に胸ふくらませていたのですが、風も強く、くもり空のため残念！海に沈む夕陽には会えませんでした。

ならばと、この高鳴る気持ちをそのまま宴会に持ち込もうとホテルに到着。「いらつしやいませ」「お疲れでしょう」の声に迎えられる、湯の浜のお湯を楽しませて頂きました。サア！それからがまた大変、すごい、さすが、お年寄りパワー！伊達や酔狂で年

**季節の中で  
一泊旅行編**



【ウィンドーム立川】



【朝日村 文化創造館】

